



News Release

09-D-1050
2010年2月15日

学校法人 青山学院 (証券コード: -)
長期優先債務格付据置: 「AA+」 (ダブルAプラス)
格付けの見通し: 「安定的」

株式会社日本格付研究所(JCR)は以下のとおり長期優先債務*の格付けを見直し、据え置きとしましたのでお知らせします。

* 長期優先債務格付けとは、債務者(発行体)の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。このうち、期限1年以内の債務に対する債務履行能力を評価したものを短期優先債務格付けと位置づけています。個別債務の評価(債券の格付け、ローンの格付け等)では、債務の契約内容、債務間の優先劣後関係、回収可能性の程度も考慮するため、個別債務の格付けが長期優先債務格付けと異なること(上回ること、または下回ること)もあります。

発行体: 学校法人 青山学院

【据置】

(対象)	(格付)	(見通し)
・長期優先債務	AA+	安定的

【格付事由】

- (1) 創立135年を迎えた国内屈指のキリスト教系総合学園。幼稚園から大学院に至るまでの一貫教育を行ない、各設置校は高位かつ安定的な学生獲得力を有する。現在、大学での積極的な新学部等の設置のみならず、教育の質的充実を図るほか、2012年予定の人文・社会科学系学部の青山キャンパス集約に向けた施設・設備対応を図るなど、長期的視野に立ったソフト・ハードの充実を進めている。総在籍者数は約25,500人。
- (2) 収益源の多様化に向けた取り組みにも積極的である。文部科学省等所管の競争的資金の縮減が予想される中においても、本学院は学内インフラの整備を進めることで研究・教育面での外部資金獲得力が増しつつある。また、青山地区での収益事業の展開も着実に進めるほか、卒業生とのコミュニケーションを活性化し、長期安定的な募金獲得基盤の整備を図るなど多様な収入源の創出にも努めている。
- (3) 目下青山キャンパスの第一次再開発が進行中であり、財政支出が嵩む局面にある。その所要資金は一部借入で賄うものの既存の引当特定資産と安定したキャッシュフローの蓄積によって充当される予定である。08年後半以降の金融システムの混乱による証券市況の悪化により、平成20年度決算は一部保有資産の評価損を計上している。市況回復の遅れもあって運用可能資産の健全性はやや低下しているが、再開発計画への支障はなく、財務リスクが拡大する懸念も小さいと考える。
- (4) 現在、本学院は建学の精神の具現化に向け、①人間教育の再創造②環境の整備③戦略の強化-の3命題を掲げ、14の課題と174項目の計画を設定し、徹底した全学的なPDCAサイクルを実践中である。こうした取り組みは教育機関の特性に配慮しつつも外部環境の変化を見定めた対応が必要であり、法人と教学とのバランスの取れた展開が必要と見られる。JCRは既に確立された本学院の競争力が、一連の運営改革によって教育・研究、社会貢献、国際展開等各領域においてどのように強化されるかに注目している。

以上
(チーフ・アナリスト 吉田法男 チーフ・アナリスト 殿村成信)

本件格付けを行うにあたり適用した主要な格付け手法は弊社のウェブサイト(<http://www.jcr.co.jp>)に「学校法人格付けの手法」として掲載されております。格付け手法は追加・変更されることもありますが、その場合は、時系列的に掲載します。本リリースの公表日と格付け手法の公表日(各手法が有効となった日)とを照らし合わせた上で、上記格付け手法をご参照ください。

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社 **日本格付研究所**

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル
<http://www.jcr.co.jp>

<情報提供電子メディア(検索コード)>

BLOOMBERG(和文:JCRA/英文:JCR) REUTERS(EJCRA)
QUICK(和文:QR/英文:QQ) JIJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

情報・研修部 TEL:03-3544-7013 FAX:03-3544-7026